

各区のふるさと会紹介

# 関東八千浦会

関東八千浦会会長 笠原宇美男

八千浦という名称は、上越市の行政上に八千浦地区があるだけで、地図の上からは、昭和二十九年の直江津町（即日市制）に編入されて以来、消え去ってしまいました。しかし、八千浦の名は小学校や中学校、やちほ保育園のほか旧八千浦村の役場として使われていた上越市公民館の八千浦分室などに、今も残っています。

旧八千浦村は、J・Rの黒井駅から犀潟に至る旧北国街道を挟んだ海岸沿いの細長い地域です。明治二十二年、当時の内務省が発動した町村大合併により、八千浦村というめ珍しい名称が生れるわけですが、その名の由来は、上古の時代に大國主命がこの海浜へやってきて、人々に漁のやり方を伝授したという神話伝承による命名という説が有力です。「古事

する方々が集まって結成された関東八千浦会は、来年で発足以来二十周年を迎えようとしています。会員二四〇名を擁し、新年会、総会、旅行などを毎年催し、会報を発行して、「百年にして若年」を共感する親睦を重ねています。

八千浦会の活動で、ほかの郷人会のそれと異なる点は、故郷の小学児童や中学生徒の健全な育成に力を注いでいることと、郷土の自然環境の保護、再生運動を展開していることです。住んでは美しい自然と共生する喜び、離れては他人に自慢したいふるさとを、故郷の人々と協力して育むことが、会の念（ねが）いです。

人は何故群れたがるのだろうかという理屈は抜きにして、八千浦会は懐かしい方言が飛び交う、損得や地位の上・下もない楽しい群れであります。島崎藤村が生前、故郷の馬籠宿を訪れて話した言葉があります。

血のつながる ふるさと  
心のつながる ふるさと  
言葉のつながる ふるさと

さて、その八千浦に生れ育った人々や縁のある人たち、更には会の趣旨に賛同



関東八千浦会総会



母校 田中堀川小中学校校長先生を囲んで